

諏訪之瀬島の火山活動 -2009年10月~2009年12月-* Volcanic Activity of Suwanosejima Volcano, October - December, 2009

福岡管区気象台 火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台
Volcanic Observations and Information Center,
Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA
Kagoshima Local Meteorological Observatory, JMA

御岳火口では、爆発的噴火¹⁾を含む噴火が断続的に発生した。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要である。

平成19年12月1日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表した。その後、予報警報事項に変更はない。

○ 概況（2009年10月~12月）

・噴煙活動（第1図、第2図）

御岳火口では、爆発的噴火¹⁾を含む噴火が断続的に発生した。爆発的噴火回数は35回であった。また、噴煙の最高高度²⁾は火口縁上1,200mであった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、期間をとおして島内の集落（御岳の南南西約4km）で降灰が時々確認された。

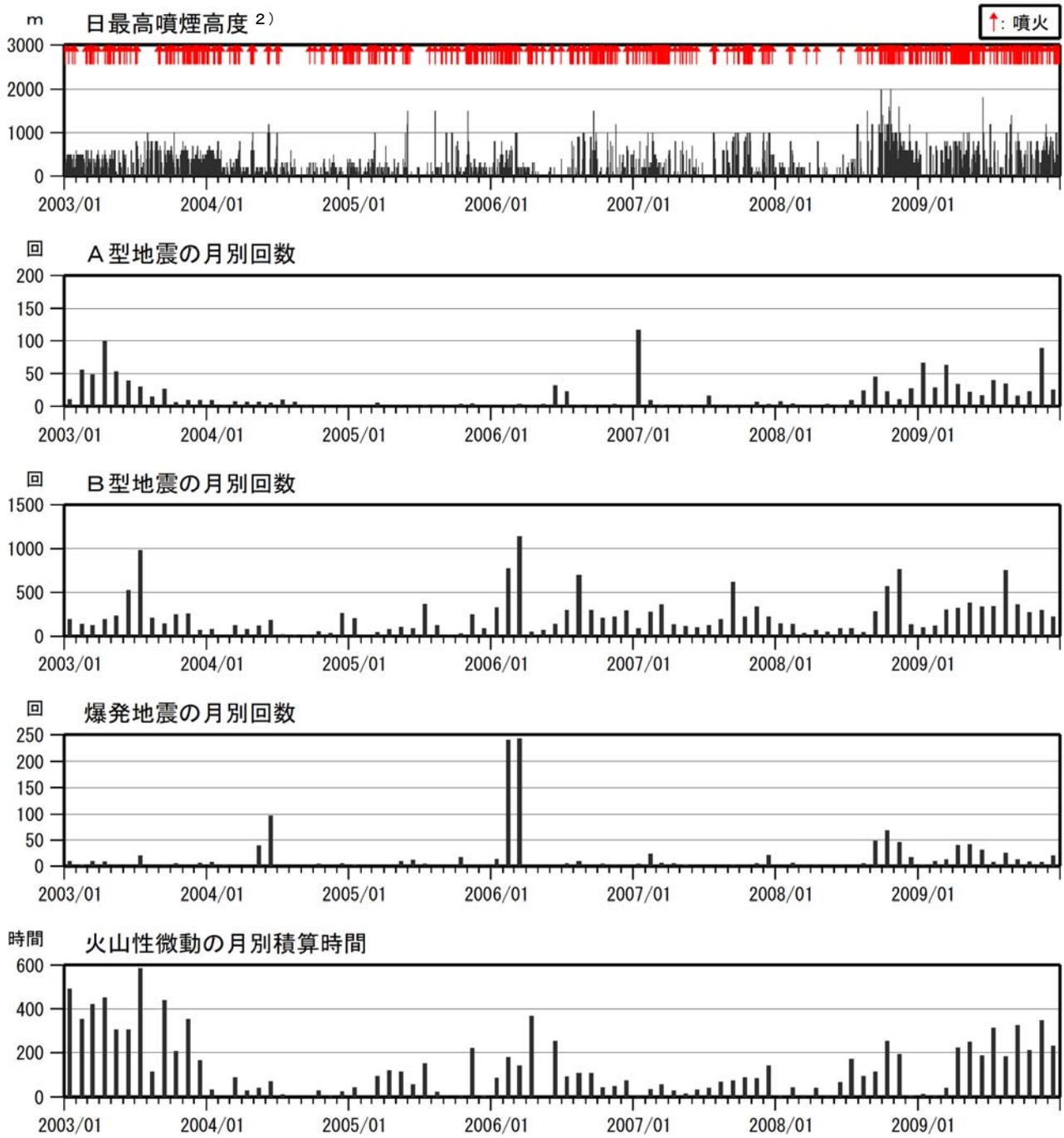
・地震、微動活動（第1~3図）

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

・上空からの観測結果（第4図）

12月22日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、御岳火口内の詳細な状況は噴煙のため確認できなかったが、赤外線熱映像装置による観測では、北東側の内壁及び外壁下部に高温部分が認められた。

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としている。
- 2) 2003年3月28日以降、噴煙の最高高度は監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告値のうち高い値を用いている。

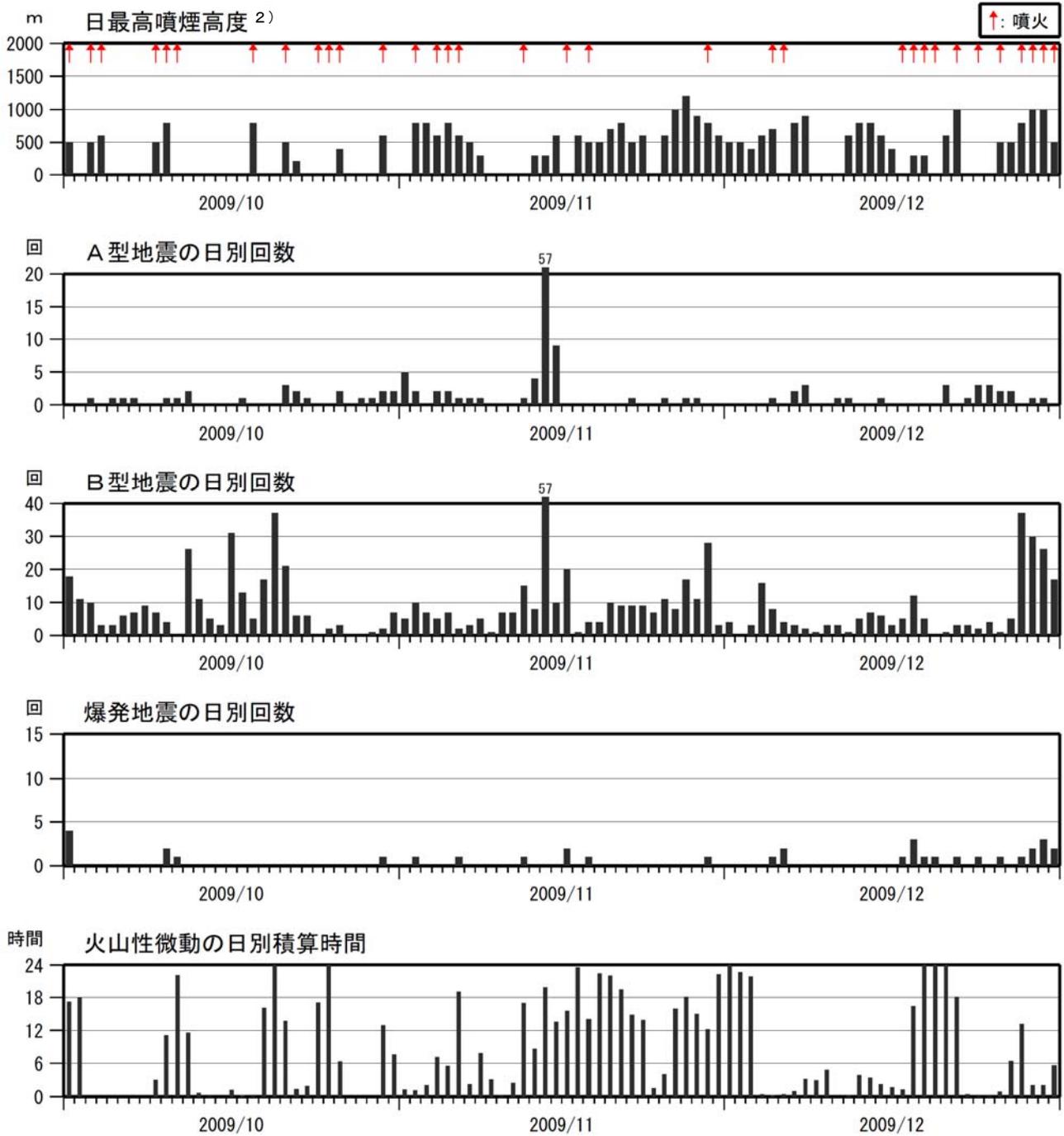


第1図 諏訪之瀬島 火山活動経過図 (2003年1月～2009年12月)
 Fig.1 Volcanic activity of Suwanosejima Volcano (January, 2003 - December, 2009).

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

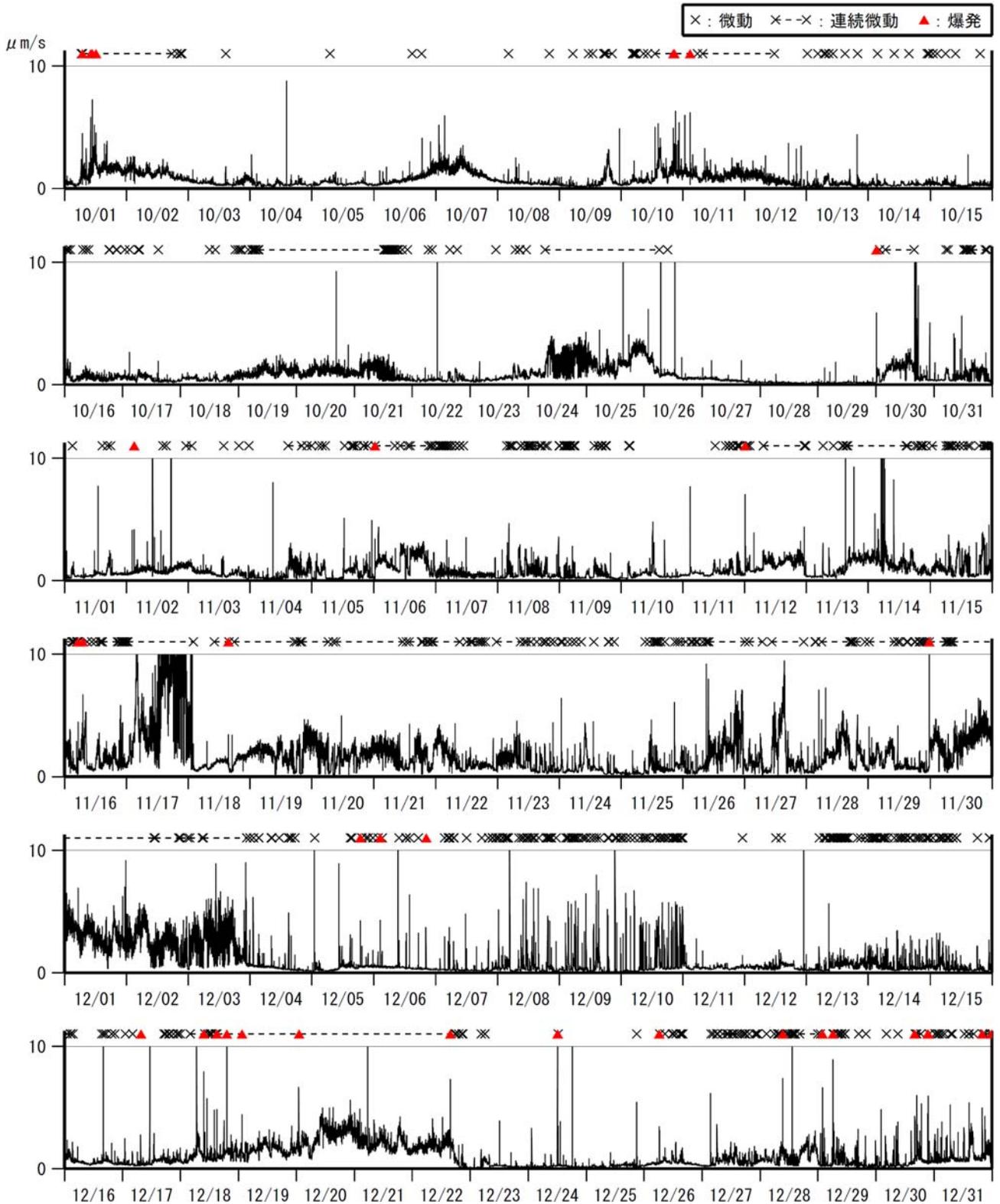
<2009年10月～12月の活動状況>

期間を通して有色噴煙が観測され、噴煙の最高高度²⁾は火口縁上1,200mであった。



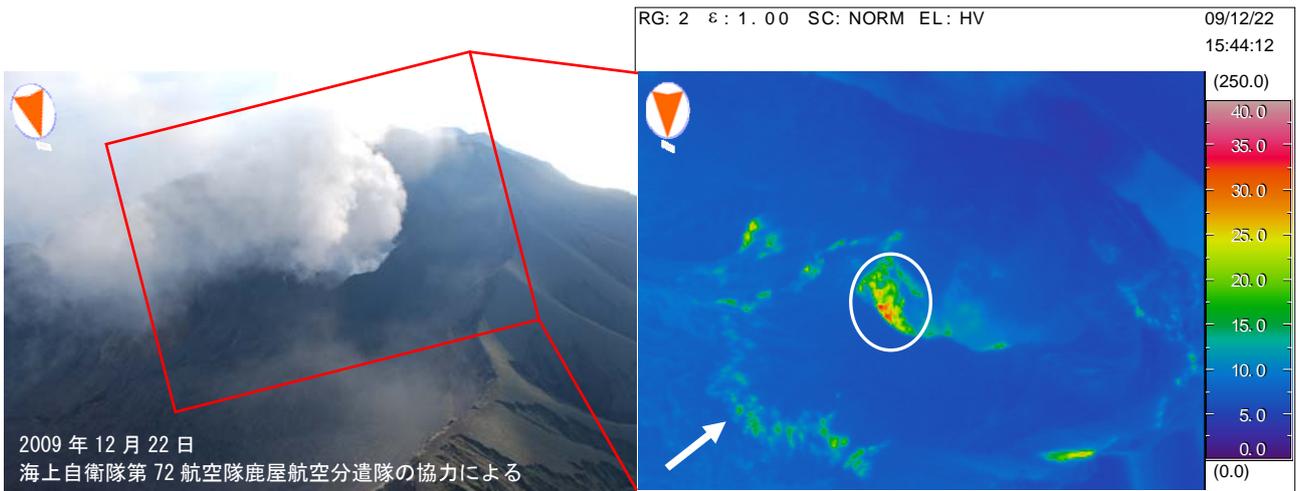
第2図 諏訪之瀬島 火山活動経過図 (2009年10月~12月)
 Fig.2 Volcanic activity of Suwanosejima Volcano (October - December, 2009).

- ・爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生した。爆発的噴火回数は35回であった。
- ・噴煙の最高高度は火口縁上1,200mであった。
- ・火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。



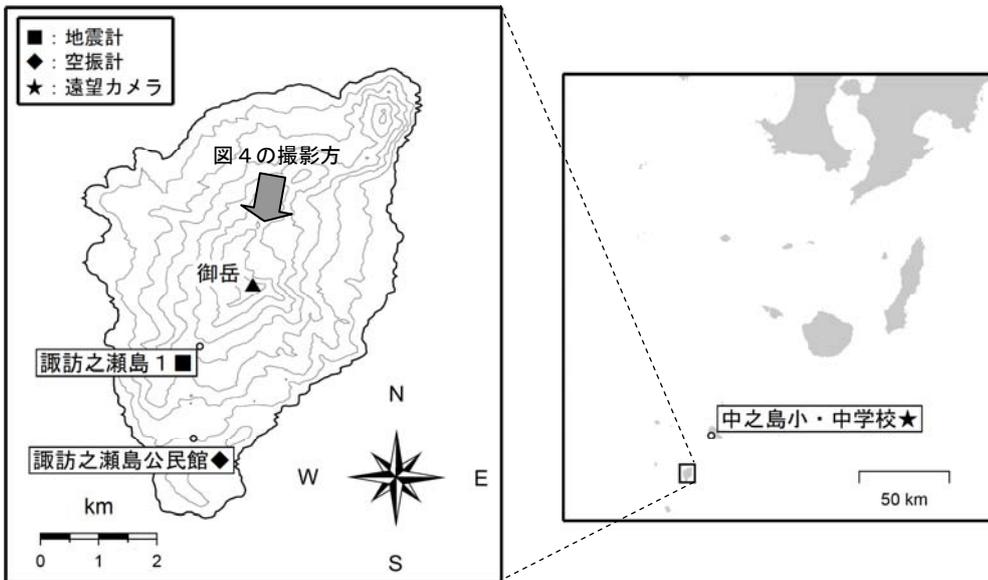
第3図 諏訪之瀬島 1分間平均振幅の時間変化 (SWA1の上下動) (2009年10月~12月)
 Fig.3 Variation of mean amplitude for one minute (October - December, 2009).

火山性連続微動は、期間を通して発生した。



第4図 諏訪之瀬島 赤外熱映像装置による御岳火口の地表面温度分布
Fig.4 Visual and thermal images of Otake.

12月22日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、御岳火口内の詳細な状況は噴煙のため確認できなかったが、赤外熱映像装置による観測では、北東側の内壁(○)及び外壁下部(矢印)に高温部分が認められた。



第5図 諏訪之瀬島 観測点配置図
Fig.5 Location map of permanent observation sites of JMA around Suwanosejima volcano.

この地図は、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用したものである。